



[神殿のような室内](#)



[見事な竹細工によるバッグ](#)

NPO法人「雲を耕す会」主催の春野の暮らしの案内を行った。
令和元年10月27日。はじめに「渋沢栄一と王子製紙」と題して、郷土史家の木下恒雄による講座と王子製紙の煉瓦館の見学、次に私設図書館「まほろば文庫」の見学を行った。
ここでは竹細工作家のGENさんを紹介する。

十割そばの「一休」さんで昼食。店主は家も店も、併設したギャラリーもすべて一人で作ったという。趣味は、溪流釣りにバイクのツーリングという。

さて、向かったのは、春野町川上というはるか山奥の竹細工作家のGENさんを訪ねる。

GENさんは、4年前に春野町に移住され、竹りの手編みのバッグを作っている。見事な出来栄で、いま注文すると完成までに25年かかるという。それでも、待ってくださるお客さんがいるわけだ。

部屋は神殿のように浄化されている。ものをひとつも置いてない。作業場にしても、シンプル。美しく整頓されている。道具の手入れも素晴らしい。

才能の安売りをしていない。たくさん売ろうとか、作ろうということはない。作品の質が高いため、口コミで自然と伝わり、多くのファンが求めている。
とても不便な山奥であるが、GENさんが移住した時、集落をあげて歓迎会をしてくれた。

問い合わせ：竹細工GENさん

<https://www.gen-take.jp/>

浜松市北部生きがい特派員 池谷 啓



[山奥にあるGENさんの家](#)



[竹細工の道具](#)